



新しい年に入って日本海側では大雪が降って寒い日が続いています。今年初めての広報をお届けします。遅くなりましたが今年もどうぞよろしくお願いいたします。よろしくお願いいたします。



4 回目の新たな年を迎えて

田上啓子

「新法になってお金が借りにくくなって、借金してまでもギャンブルや買い物依存などに依存する人が少なくなったのではないか」とおっしゃるある司法の先生の言葉に、私は心からそうあってほしいと思いました。

しかし先日、「借金はしていないけど、パチンコが止まらない。やめたいんです」という匿名の相談がありました。その声からすると 30 才代の小学生の何人かのお子さんを待つお母さんらしい。「家族には絶対に知られたくないんです」と言う。

パチンコ産業が 3 兆円の時期のあの勝てば 25 万 30 万円財布に入るという、さらに感情が、最高の快感を味わっている女性たち、お母さんになってが陥りやすい、気楽に入れて楽しかった場所に戻って「進行していく病」に変化してしまうこともあると思います。また最近では「高齢者の方がはまる」ことも少なくないという新聞の記事を読みました。

今も生きることが苦しく、「一息つけて安全の場所」を知らないでを探し求めている女性が「必ずいる」と私は確信しています。

ヌジュミのことをもっと社会に知ってもらう方法はないかと思案している日々です。



支援してくださる方から「存続できるといいですね。会報やチラシのようなものを人の集まる所に置いてもらえるといいと思います。地方自治体の議員さんに話をするにはできないでしょうか。「応援しています」など多くの「続けてください」と言う応援をくださいました。やれることやらせてもらいます。

ヌジュミの NPO 法人化へのいきさつをお話しします。

ボランティアの K

昨年 8 月、ヌジュミの月報紙の中に責任者の田上啓子さんがお嬢さんから「もっと一緒に傍にいて欲しい。」と言われている旨のことを書かれていました。ボラ

ンティア募集中とも書いてあり、週に1日、ボランティアとして私が何かお手伝いができたら、母親である田上啓子さんはお嬢さんと少しは長く一緒にいられるのではと考えて、ヌジュミへ連絡したことから、私は、ヌジュミと関わるようになりました。

家族に依存症者がいたことにより色々なことを学びたいと考え、精神保健福祉士の養成校に通学していた3年前、先生方、事務職の方やクラスメートがボランティアとして自然体で活動しているのを知りました。いつか私もボランティアとして仕事以外の社会と関わりたいと考えていました。

ボランティアの私は最初はテープ起こしをしていました。田上啓子さんは助成金や各種の申込申請書類や報告書作成のため、泊り込んでいました。2か月近く経った頃、「お金がないんだけど」と言われました。任意団体やNPOは、金銭的な余裕がないところが多いので、ヌジュミも活動するのにギリギリの状態にあると思いつつ、「どれ位ないの？」と質問しました。その返事は私の想像とは異なり、「年内の家賃までは何とか大丈夫」と聞き本当にビックリしました。なぜか不思議と‘これからもずーっと大丈夫だろう’という感覚が私にはありました。

回復していく女性たちをヌジュミに縛り付けることなく、ヌジュミから社会へ、家庭へと巣立たせていく様子を知り、まだ社会に埋もれているギャンブル依存症の女性が安心して回復できるこの場を自然消滅させたくない強く思いました。

今年度は一つも助成金を受けることができずにいることを知りました。任意団体が申請できる助成金は限られており、ヌジュミの活動を安定して継続するためにもNPO法人化をみんなで考え、ヌジュミ委員会の了承を得、手続きをすることになりました。

2011年4月 地域活動支援センター(精神障害者型)を目指している事もあり、2010年11月末にはNPO法人申請書類を揃えた方がいいのではないかと考えていましたが、私がこの件に関わっていいのかわからず、様子を見ていました。

NPO法人申請事務の案内書を田上さんから受け取り、10月下旬書類の準備分担をして作業に入りました。文章のチェックをヌジュミ委員会のKさんにお願ひしました。



2010年12月にNPO法人申請が受理されました。2011年3月中には、認可が下り、登記手続きをする予定です。

そして、2011年1月、私たちは、これからの活動には、より広いところを必要とするので、新しい場所を探しています。

私は今、一人でも多くの女性が一步を踏み出せるためのお手伝いをできることを、切に望んでいます。

M

昨年の12月、神奈川県ボランティア21補助金のプレゼンテーションに参加させて頂いた。以前の仕事柄、多少パソコンを使えるという事がきっかけで、ギャンブルを辞めて11ヶ月を過ぎた頃から少しずつパソコンを使用しての資料作成などをお手伝いさせて頂く機会が出てきた。田上さんは、よく「通所者をお願いするのは申し訳ない。」と気を使ってくれたが、私自身はミーティングとは違う感覚を味わえるという事で楽しくやらせて貰っていた。そんな中、このプレゼンの話が舞い込み、参加させて貰う事にした。

正直言うと、「ヌジュミの為に！！」という一心でこのプレゼンテーションを引き受けた訳ではなかった。「このような機会は中々ないから、自分の成長の為に参加して損はない。」という損得感情があったのだ。ただ、通所し始めた当初「プログラムを終了したら、ヌジュミとは一切関わらないようにする。」などと話していた頃に比べると、「私の出来る範囲であればお手伝い。」という心境の変化が多少出てきていた。それは、「ミーティングや、仲間のおかげで回復しているとは思わない。」などと自分勝手な発言ばかりを繰り返していた私に、ヌジュミの仲間は田上さん同様温かい目で見守ってくれたし、「何でそんな事を言うの。」とは一言も言わなかった。それどころか、何時も応援してくれていたし、何かと気にかけてくれていた。そんな、仲間の思いやりに触れるにつれ自分自身の気持ちが少しずつ変わっていったような気がする。又、自分が周囲に対する感謝の気持ちが薄く、まるで自分一人の力で生きてきたという感覚が強かった、そして、その考えもギャンブルにはまっていった原因の1つであると気付けた事も要因の1つだと思う。



仕事をしていた時、社内での簡単なプレゼンテーションに参加した事はあったがボランティア21のような大々的なものは初めてでとても緊張した。周囲の人に「そんなに力まないで。」と言って貰ったり、自分自身でもそう言い聞かせ続けたが、何時もの「やるからには、何がなんでもとりたいたい。」という気持ちが強く働きプレッシャーに襲われていた。そのような感じだった為プレゼン当日になっても、「やるだけ、やった。」という気持ちにはなれず、他のプレゼンの団体の話を聞く余裕もなかった。会場の外に出て煙草を吸ったり、練習をしたりと落ちつかない感じで時間を過ごしていた。そこに、ヌジュミの仲間の一人が仕事を抜け出して駆けつけてくれた。私は、今までもこうやって仲間に勇気やパワーを貰ってきたのだと、自分は一人ではないのだと改めて感じた。

プレゼンが始まり、話していく内に自分がこの1年間ヌジュミのプログラムを通じて感じてきた楽しかった事、嫌だった事、大変だった事、そして何より今ギャンブルをやっていないという嬉しさなどの感情が次々にこみ上げてきて、プレ

ゼン最後の審査員へのメッセージでは涙が溢れた。本当は最初から最後まで冷静にピシッとかつこよくきめたかったのだが、これが今の私なのだと思う。

今後、このような機会に参加出来るかは判らないが、非常によい経験をさせて貰えたと心から感じている。

ヌジュミにきてくれた一人住まいの女性(30才代)がいました。昨年11月末に「食べるものとヌジュミに行く電車代がないの」と電話をくれました。「保護課の担当者の人に相談してみてください」と伝えました。その後、暮れにご家族から電話で彼女が亡くなっているのが見つかったとの連絡が入りました。私たちはできる限りのサポートをさせてもらいました。紙面を借りて、「生き抜いた」彼女のご冥福を祈ります。

	電話相談	メッセージ
11月	1件	3件
12月	6件	1件

女性	面接	関係者	利用者
11月	3名	1名	9名
12月	2名	1名	9名

HELP ME! **ヌジュミを続けさせてください!**

回復施設事業の組織を安定運営するために、ぜひとも、ボランティアでのご協力を、お願い致します。



- * 苦しんでいる人に来てもらうために「どうしたらメッセージが届くのか」を一緒に考えてくださる方
- * 通所者と関わる職員増員の課題について考えてくださる方
- * 運営の管理と、企業や障害福祉課のある行政などに、安定確保の企画・実行に関わっていただける方
- * 社会啓発の企画、実践してくださる方
- * 経理を担当していただける方
- * その他よいアイデアがあれば教えてください。

皆様のご協力、愛なくしてヌジュミは存続できません。どうかお力を貸していただきたく、切にお願い申し上げます。

- ・賛助会員 (任意の額)
- ・個人会員 1,000円(一口以上)
- ・団体会員 5,000円(一口以上)

***郵便振替口座 口座番号**
00270-4-61229
加入者名 ヌジュミ